



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 ”深山たかし”で閲覧できます。

議会りポト

教育問題

国語力を育む

生きる力の源泉は、国語力にあると考えています。人間関係を築くためにも、社会生活を営むためにも国語を学ぶことは重要です。そこで、教育委員会にどのような取り組みを行っているのかを尋ねました。

【答え】

国語力を育むためにどのような工夫をしているかについてでございますが、国語力はすべての教科の基本であり、上尾市といたしましても、国語力の育成は、大変重要であると認識しております。そのために、日々の授業では、言語活動の充実に取り組んでいるところです。

各学校では、学力調査の結果を分析して、自校の課題を明確にした「学力向上プラン」を作成しています。これに基づいて、国語では「書く力」「読む力」を育てるために、「初め・なか・終わり」などの構成を意識して小作文を書いたり、新聞等のコラムを読んで、内容を要約して書くなどの学習や音読などを行っております。

さらに、「話す力」「聞く力」を育てる取組といたしましては、授業の中で、ペアやグループで自分の考えを説明したり、話を聞き取り、聞いた内容と自分の考えを区別してメモしたりするなど、話す相手や内容を意識させた話し合い活動を意図的に取り入れています。

理科離れ対策

言語能力を高めるためには、言語環境を整えることが大変重要であります。教育委員会では、市内全校に学校図書館支援員を配置し、児童生徒が常に本に親しめる環境作りに取り組んでいます。

また、委嘱研究におきまして、言語活動の充実に取り組んだ学校の研究成果を市内に発表することで、言語能力の育成を図っております。

今年の全国学力テストから理科が採用されました。学力トップの福井県では、理数科目の知識を応用して、生活に関わる課題に仲間と力を合わせて取り組むことで数学や理科への関心を高めてもらおうと、県教育委員会が「ふくい理数グランプリ」を毎年開いています。

今年は、約一、〇〇〇人が参加した予選を勝ち抜いた、県内の中学生六十六人が三人一組のチームで参

加し、数学と理科に分かれ難しい課題に挑戦しました。上尾市でもこのような選手権を行って貰いたいと考えて、質問しました。

【答え】

埼玉県でも、平成二十五年度から、「科学の甲子園ジュニア埼玉県大会」を実施しており、今年度も、上尾市内の中学生が参加しております。

他市の中学生と競い合う中で、科学的な思考や判断力、そして表現力を高めるよい機会となっております。

上尾市教育委員会では、市独自の「理数グランプリ」は、現在実施しておりませんが、理科好きの子供たちを増やす取組として、現在、近隣の大学と連携して「あげお・いな・おけがわ子ども大学」や「あげお子ども大学」を開催し、小学校段階における理科教育の充実とともに、小学生の科学に親しむ芽を育てています。

子ども達の居場所

大阪寝屋川市の事件に衝撃を受けました。

子ども達を事件、事故から守るためにどのような事を行っているのかを尋ねました。

【問い】

現在、学校では、夜間の外出や外泊についてどのような指導をしているのか、また、市ではどのような取組をしているのか

【答え】

各学校では、児童生徒の夜間の外出や外泊は様々な危険があることから、原則として禁止しており、全校朝会や学年集会・保護者会など、年間をとおして指導しております。

特に、長期休業前には、長期休業中の生活について、夜間の外出などの禁止事項や注意事項を確認するとともに、規則正しい生活を送ることができるよう、保護者会や三者面談などで指導しています。

上尾市の取組についてですが、上尾市では、学校・PTAや地域、関係機関で構成する上尾市生徒指導推進協議会を組織し、長期休業中、すべての小・中・高等学校がそれぞれ繁華街や地域の街頭補導を行っています。

また、少年愛護センターでは、街頭補導活動を展開し、夕方から午後八時にかけて、市内の遊戯施設や大規模小売店、公園などを定期的に巡回し、青少年を見かけた場合には、犯罪に巻き込まれる危険性を諭し、帰宅を促しています。

家出や無断外泊についての保護者からの相談も受けており、助言や内容に応じて専門機関の紹介などを行っています。

教育委員会としては、今後も、関係機関との連携を図り、青少年の非行問題行動の未然防止に努めていきます。

子ども達の居場所に！

図書館を、

「学校が、死ぬほどつらい子は、図書館へいらっしやい」というメッセージです。夏休みが明けるところに子どもの自殺が増える傾向があることから、八月二十六日、神奈川県鎌倉市立の図書館司書が公式ツイッターで、つぶやきました。

大きな反響を呼び、十三時間で四万回以上もリツイートされています。

九月一日に子どもの自殺が突出して多いとの報道を読み、図書館の中で知ったことを思い出し「自殺したことを思い出し「自殺したくなったら図書館へ」。

アメリカの図書館に貼られていたというポスターの文言。図書館には問題解決のヒントや人生を支える何かがある。そんなメッセージでした。

今回のツイッターには、「あのころの私に聞かせてあげたい」「感動した」など多くのコメントが寄せられています。

●青少年の居場所の受け皿に、図書館は最適だと思う

が、所見を答えてください。子どもたちの心のよりどころに、図書館を利用していただくことについては、「青少年の居場所」の重要な場のひとつ、として相応しいと考えます。

●今後、新図書が青少年センターとの複合施設を計画していく上で、青少年との係わりをどのように高めていくのか見解を聞かせください。

新図書館は、青少年センターとの複合施設となることで、青少年が来なくなるような場づくりは大事な課題であると認識しています。図書館には図書館を愛する様々な世代の方がいらっしやいます。そのような人々と若者が、世代を超え、呼びかけあうことで、コミュニケーションが図れると考えております。

また、若者が集う場所に、図書館のさまざまな情報を提供することで、新たな発見を生み出し、新たな活動の場ができると期待を寄せ

ております。複合施設の特徴を活かしたイベントに図書館ボランティアを融合させる、そんなきっかけづくりを提供して、活性化を図っていききたいと考えております。

市議会議員選挙

十二月六日は、上尾市市議会議員選挙の投票日です。今回で四回目の挑戦となります。

次期は、何としても図書館を完成させたいと考えています。「上尾の図書館を、日本一素敵な図書館にしたい。」そんな想いで図書館整備に取り組んできました。永い時間が掛かってしまいましたが、やっと図書館建設計画も具体的になり、あと、一歩のところまで来

ました。図書館は、単なるハコモノではありません。文化レベルのパロメーターです。自治体の評価指標にもなっています。